

ARFANEWS

発行所 / スポーツ選手のためのリハビリテーション研究会 〒734-8551 広島県広島市南区霞1-2-3 広島大学大学院保健学研究科浦辺研究室内 電話082-257-5405

今回の封入物について

年会費納入用振込用紙

平成17年度事業参加アンケート
(ハガキ)第23回研修会「一般演題」募集要
項

■ 代表挨拶

景気は低め停滞でなかなか暗雲が去らないなか、世情も何かと不安定ですが、それでもまた桜の季節を迎えました。平成15年より新しい執行部体制でやってきました昨年は2年目であり、1年目の反省を含めて積み重ねを続けてきました。3月6日に総会を無事に終えることができました。再度3年目に向けて新しいスタートが始まります。

この4月からは事務局を私の所属部署で引き受けることになりました。事務局で不備が発生した際にはおしかりをいただくことは当然ですが、何分スタッフによる手作りの事務局ですので、その点をくんでいただければ幸いです。スポーツ選手のリハビリテーション研究会20余年分の在庫荷物が先日広島に送られてきましたが、それを整理しながら、会の歩んできた道を再度確認する機会になりました。

スポーツ選手のためのリハビリテーション研究会の事業を通じて、最近特に新しい若い会員の方とお会いし、お話する機会が増えました。研究会を運営する責任者として「研究会に何を求めて集まっているのか」ということにどうしても話題が進んでしまいます。リハビリテーションやアスレティック・トレーナーの活動現場で、ほんとうに行っていることが妥当なのか、あるいは効果はどうか、ということを考えているのがスポーツ選手のためのリハビリテーション研究会であると

いうように多くの会員の方が答えてくださいます。スポーツ現場に役立つ客観的な情報が研究会に望まれていると、私は認識しています。予算をさらに見直し、中断しているJAR (Journal of Athletic Rehabilitation) 誌の発刊も続けていきたいと思えます。

平成17年度の事業は、これまで以上に充実した内容で実施できると思います。地域を見回しても、東京都、愛知県、大阪府、岡山県、熊本県という場所で事業を展開していきますので、どうぞ日程を調整の上、最寄りの地で多くの皆様の参加と生の声をお待ちしております。最近ではホームページからのアクセスも増えており、情報交換が早くスムーズに行えるように努力するつもりです。まだまだ、私達の力や考えでは不足しているところが多いのですが、スポーツ選手のためのリハビリテーション研究会が皆さんの手で支えられていることを実感できるように執行部一同努力いたしますので、どうぞ本年度もご協力をお願いします。

平成17年4月吉日

本会代表 浦辺幸夫

■ 今後の事業案内

平成17年度第1回講習会(大阪)

平成17年度の第1回講習会をはじめ大阪で開催いたします。本講習会のテーマはスポーツにおけるさまざまな動きをケガ・歩き・トレーニング・競技種目のいろいろな面から捉え、「効率的な動きを作る」として、動きというものを皆様と考えていける内容で企画しました。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

■ 開催要項

日時：平成17年6月5日(日) 受付9:30より、10:00~16:00

会場：大阪医専

参加費：会員5,000円

非会員7,000円

申し込み受付：当日受付(予約不要)

テーマ：「効率的な動きをつくる」

プログラム：

9:30~ 受付開始

10:00~11:00 講義1「ケガにつながる動きとその改善策(仮)」

山際哲夫・やまぎわ整形外科院長

11:10~12:10 講義2「二軸動作~常歩(仮)」小田伸午・京都大学高等教育研究開発推進センター教授

13:10~14:10 講義3「動きに活かすトレーニング(仮)」浦辺幸夫・広島大学大学院保健学研究科教授

14:20~16:00 パネルディスカッション「効率的な動きをつくる」

パネラー：油谷浩之・関西学院大学アメリカンフットボール部・ストロングスコーチ(アメフト)、伊藤浩充・神戸大学医学部保健学科(サッカー)、吉村直樹・やまぎわ整形外科(ラグビー)、座長：大工谷新一・南大阪スポーツ医学&リハビリテーションセンター

問い合わせ先

平成17年度第1回講習会開催委員長
吉村直樹(やまぎわ整形外科)

E-Mail: bar_y2@yahoo.co.jp

第23回研修会開催のご案内

第23回研修会はメインテーマを「スポーツ現場に必要な医科学サポート」とし、企画を進めております。臨床と研究の両面から知識を深め、現場の実践活動に役立つ内容を考えております。また、シンポジウムでは地域に根差した活動をクロージングアップし、これからの地域スポー

ツ医科学サポートに活用していただきたく共に感じ考えられる2日間になりたいと思います。今年は岡山にて国体が開催され、岡山県内は活気に満ちております。多くの方々の研修会へのご参加を心よりお待ちしております。

■開催要項

会期：平成17年11月26日（土）・27日（日）

会場：岡山国際交流センター（岡山駅西口徒歩2分）

テーマ：「スポーツ現場に必要な医科学サポート」

[基調講演 1]

テーマ：「スポーツ現場に活かす下肢スポーツ外傷（膝関節前十字靱帯損傷）の臨床（仮称）」阿部信寛（岡山大学医学部整形外科科学講座）（交渉中）

[基調講演 2]

テーマ：「下肢スポーツ外傷のバイオメカニクス研究から現場に提言できるもの（仮称）」河村顕治（吉備国際大学保健科学部教授）（交渉中）

[特別講演]

テーマ：「私のウェイト・トレーニング人生（仮称）」窪田 登（吉備国際大学学長）（交渉中）

[シンポジウム]

テーマ：「地域に根差したスポーツ医科学サポートを考える」

一般演題 1 3部

問い合わせ先

第23回研修会長 吉備国際大学保健科学部 加藤茂幸

E-mail : sigekato@kiui.ac.jp

第23回研修会「一般演題」募集の案内

例年どおり口述発表による一般演題のセッションを設けました。つきましては、スポーツ選手のためのリハビリテーションに関する演題発表を広く募集致します。皆様の日頃の研究および臨床の成果や問題点についてのご発表を通じて、アスレティックリハビリテーションに関する意見交換と参加者全員の交流が深

まり、研修会がより一層意義あるものにして参りたいと考えております。皆様の積極的なご参加をお待ち申し上げます。詳細は第23回研修会「一般演題」募集要項をご参照ください。

応募先および問い合わせ先

スポーツ選手のためのリハビリテーション研究会 第23回研修会 学術審査部代表 坂光徹彦

福原リハビリテーション整形外科内科医院 リハビリテーション科, 広島県広島市佐伯区海老園2-9-22

FAX: 082-925-0556

E-mail: tetsuhiko.s@proof.ocn.ne.jp

（演題応募およびお問い合わせは、FAXまたはE-mailでお願いします）

■事業報告 第19回ワークショップ（東京）開催報告

去る平成17年1月29日（土）30日（日）の2日間に第19回ワークショップを東京西葛西の東京スポーツレクリエーション専門学校において開催いたしました。「競技復帰直前のアスレティックリハビリテーション - 走・跳動作に着目して - 」をテーマにスポーツ現場でトレーナーとして、指導者としてご活躍している4人の先生にご講演を賜りました。

1日目は国際武道大学の山本利春先生に「競技特性を踏まえた下肢のアスレティックリハビリテーションとトレーニング処方」について競技特性を捉えたゴール設定を立て、筋力、柔軟性、体力、スキルなどそれぞれを考慮しながらのプログラムの進め方についてを国際武道大学で実施している自転車ペダリングやWBIなどの実例を挙げていただき御講義いただきました。ミズノ(株)のアスレティックトレーナーの岩本広明先生には「スプリント動作を模倣した筋力強化とランニングドリル」について、陸上競技のトップ選手が実際に行っているランニングドリルのビデオを紹介していただき、トップの選手がどのような考えでドリルを

行っているかを説明の後、受講生全員で実技を行いました。またスプリントに必要な股関節周囲の筋力強化についても指導していただき、受講生自身で実際に体験しました。

2日目は「段階的プライオメトリックトレーニングを利用したジャンプドリル」について茨城県立医療大学の眞鍋芳明先生に御講義いただきました。眞鍋先生は陸上競技の10種競技で日本選手権にも出場されたほどのトップアスリートで、現在も10種競技を中心とした選手を指導されています。今回は陸上競技とそれ以外の競技についても、プライオメトリックトレーニングの実際の進め方、負荷、難易度、競技特性を踏まえたプログラムについて実技を中心に御講義いただきました。

また「素早い動作（アジリティ）獲得のためのトレーニング」についてエス・チャレンジ代表の飯島先生に御講義頂きました。飯島先生はスキーやゴルフなどさまざまな競技のパーソナルトレーナーとして活躍されています。今回はご自身が考案されたステップワークトレーニングを中心に御講義いただきました。ステップワークトレーニングはステップワークディスクを用いて、四肢の協調性（コーディネーション）やバランス能力などを養成するトレーニングで、幼児から高齢者まで、リコンディショニングの場面から競技スポーツ選手の高度なトレーニングまでカバー出来る、全く新しいトレーニングであり、新鮮で興味深い内容でした。

最後の講義として「素早い動作（アジリティ）獲得のためのトレーニング」について、国立スポーツ科学センターの松田直樹、小粥智浩両先生に御講義いただきました。両先生ともサッカーの日本代表のジュニアのカテゴリーのトレーナーとして帯同されていて、今回はサッカーの競技中に使用されている様々なステップ動作を中心にご指導いただきました。松田先生には実際の試合のビデオからどのような動作があるか

を競技特性から分析し、その動作を獲得するためのドリルを中心に講義いただきました。また小粥先生にはゴールキーパーの動作について、松田先生と同様に講義いただきました。トレーニング要素を踏まえた競技復帰直前のアスレティックリハビリテーションについて、受講者の皆様がご自身でイメージした動作を実際に自分自身で動く事の難しさを体験していただき、それぞれの臨床や現場で指導する時にいかに選手にわかりやすく指導できるポイントについて確認していただければという趣旨もありました。また2日間の内ほとんどが実技で、かなり肉体的にも疲れたワークショップの内容でしたが、受講生の真摯で熱心な実技に取り組む姿勢により無事スケジュールを滞りなく終わる事ができました。

また講師を務めていただきました先生方、ワークショップ会場として快くお貸しいただいた東京スポーツレクリエーション専門学校にも厚くお礼申し上げますと共に感謝の意を表したいと思います。

第19回ワークショップ開催委員長
増田雄一（有限会社リニアート）

第19回ワークショップに参加して

平成17年1月29・30日に開催されたARFA第19回ワークショップ（東京）を受講しました。専門学校の教室及び体育館で行われたため、他の参加者の方との距離も近く、スポーツ現場で実際に行われているトレーニングの実技がメインであったため、学生時代の実習のような臨場感あふれる雰囲気でした。

まず、最初は国際武道大学の山本利春先生に、アスレティックリハビリテーションの最終局面でのポイント、またそこにつなげるためのメディカルリハビリテーションからの系統的なアプローチについて競技特性をふまえたROM・筋力・体力（パワー）・道具……等さまざまな視点から、熱心に講義いただきました。実技はミズノ（株）岩本広明先生

のスプリント・ランニングドリルからはじまり、2日目には茨城県立医療大学眞鍋芳明先生によるプライオメトリックス・ジャンプドリル、S-CHALLENGE飯島庸一先生による認知の要素を取り入れたフットワークドリル、国立スポーツ科学センター松田直樹先生によるフットワークドリル（方向転換・競技特性）と日本トップレベルの選手の非常に貴重な映像や各競技特性の説明・競技特性を把握した上で実際のトレーニング方法を体で学びました。2日目の午後には疲労・筋肉痛で体の動きが制動できなくなったり足関節に痛みがでたりと、スポーツ選手に対しトレーニングを行うにあたってのリスク管理・配慮についても体を通して感じることができ、色々な意味で有意義なものとなりました。

今後とも、評価だけでなく今回のようなトレーニングに関するワークショップも続けて企画していただければ強く感じました。企画・運営していただいたスタッフの方々にお礼申し上げます。

埼玉医科大学病院リハビリテーション科 浦川 宰

平成16年度第2回講習会報告

去る3月6日、国立オリンピック記念青少年総合センターで、平成16年度第2回講習会が開催されました。

今回のテーマは「半月板損傷の治療とリスク管理」として、以下3講義と報告を企画し、当日は天候危うい中にも関わらず、93名もの参加者に来ていただき盛況に終了いたしました。各講師の先生にはスポーツ現場やこれからの半月板医療に有意義な見解を提示していただき、参加者皆様より大変な好評をいただきました。

講義1は「半月板損傷の治療とリスク管理」を福田潤先生（藤沢湘南台病院整形外科）に半月板損傷の解剖、病態について貴重な画像や多くの症例を詳しく述べていただきました。講義2は「半月板損傷に対する

アスレティックリハビリテーション」を膝機能（脛骨大腿関節）の視点を主体とし藤堂庫治先生（三菱名古屋病院）に講義していただきました。新たな試みとして講義3は「生体環境設計による関節機能の再建」とし、最新医療である再生医療の研究現場から、京都大学国際創造センター教授の富田直秀先生に現状と今後の可能性について、多岐に渡りご講義いただきました。中でも軟骨再生実験具体例を示されて、「機能をつくる」から「機能を育てる」という発想が印象的でした。

報告として、「アテネオリンピック本部医務範トレーナー帯同報告」を当会理事の増田雄一先生（有限会社リニアート）にさせていただきました。JOCの新体制構築を担いご活躍されております増田先生は、本部医務班として帯同され、各国のメディカルスタッフのメンバー構成やオリンピック村の状況などを豊富な写真とともに紹介していただきました。

最後に、会期中のプログラム順変更などありましたが、講師やスタッフならびに参加者皆様のご協力、ご理解により滞りなく終了できましたことを皆様に感謝いたします。

第2回講習会開催委員長
寺園圭一（城所整形外科）

第2回講習会を通して学んだこと

平成17年3月6日に国立オリンピック記念青少年総合センターで「半月板損傷の治療とリスク管理」をテーマとした講習会が開催されました。

講演では、福田潤先生の「治療とリスク管理」についてお話をされました。診断及び治療については発生機序や軟骨損傷の有無、半月板切除部位と量、筋力との関係などに着目することが重要であり、半月板損傷の多様な症状に対して個別のリハスケジュールを考えるということを学びました。

藤堂庫治先生の「アスレティックリハビリテーション」の講演では、多くの臨床データからknee-in&toe-

outで内側半月板損傷も非常に多いと知りました。そして、膝後内側の筋機能低下における下腿回旋への影響のお話が大変勉強になりました。

富田直秀先生の「生体環境設計による関節機能の再建」の講演では、再生医学が非常に進歩しており、その技術を生かすためには本来の人間の正しい動きというものが不可欠であることを学びました。

増田雄一先生の「アテネオリンピック本部医務班トレーナー帯同報告」では、日本選手高調の要因としてJISSの活用、情報、科学体制の整備が挙げられることや、選手の精神安定を考慮して環境整備を整えることにも非常に努力されていると知ることができました。

私の学校ではスポーツ選手のリハビリテーションに興味をもった学生十数人で毎週放課後に勉強会を開催し、自分で考えることの大切さを学んでいます。先日、学生で発表会を行いました。自分の考えを発表することは怖かったですが、先生や他の学生との考え方の違いや、共有できる部分を話し合うことで進歩し、向上することへの意欲が沸きました。

今回の学会を通して、先生方が臨床で得た経験を知識として吸収するだけでなく考察し、さらに共有することによって進歩し、対象者様へと還元しなければならないということを感じることによって「考えること」の大切さを改めて学ぶことができました。

そして、学会後の懇親会でも先生方の貴重なお話を聞かせていただきました。私達学生を快く受け入れて下さったことに心から感謝しています。ありがとうございました。

帝京平成大学専門学校 1 年
中野智彰

平成16年度定期総会報告

平成17年3月6日国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された平成16年度第2回講習会に併せて開かれた平成16年度定期総会は、会員361名のうち43名の出席、102

名の委任状提出を得て、定数の5分の1以上の出席が確認され成立しました。なおニュース前号に記載したすべての議案および平成16年度会計報告、平成17年度予算案についてすべてが承認されました。

■事業予定

平成17年度ワークショップ事業予定

・第20回ワークショップ

日時：平成17年7月30日（土）
7月31日（日）

場所：愛知県を予定

・第21回ワークショップ

日時：平成18年2月頃を予定
場所：熊本県を予定

詳細決まりましたら次号ニュースまたは当会ホームページに掲載いたします。

■各部・各委員会からのお知らせ■

平成17年度年会費納入について

平成17年4月1日からの新年度に際し、平成17年度の年会費の納入を会員の皆様をお願い申し上げます。SR研定款細則第1章第6条により、年会費納入期限は7月31日となっております。納入要項を参照の上、遅延のないよう切にお願い申し上げます。

領収書が必要な場合は、年会費納入後に会員番号、氏名、送付先住所を明記の上、振込控えを同封し、下記宛にお送り下さい。折り返し領収書を発行させていただきます。ただし、領収書の宛名は個人名に限らせていただきます。病院名、企業名の連名等は出来ませんので予めご了承下さい。

年会費未納の方は平成17年度事業には参加できませんのでご注意ください。

■年会費納入要項

年会費額：会員 / 10,000円

学生会員 / 5,000円

納入方法：下記の かのどちらかの方法で納入願います。

同封の郵便振替用紙に必ず、氏名、連絡先住所、連絡先電話番号を

記載し、上記の該当金額を郵便局よりご送金下さい（4月1日以降にお振り込み願います）。なお、通信欄には何も記載しないで下さい。住所変更等の通信事項のある方は別途ハガキにて下記までお送り下さい。なお、第1回講習会に参加される方は年会費納入の確認のため、振替票控えを当日お持ち下さい。

第1回講習会（6月5日開催）にて、年会費受付窓口で直接お払い下さい。

問い合わせ先

〒734-8551 広島県広島市南区霞1-2-3 広島大学大学院保健学研究科 浦辺研究室内

TEL 082-257-5405

FAX 082-257-5405

E-mail : sporeha@hiroshima-u.ac.jp

スポーツ選手のためのリハビリテーション研究会事務局

■事務局移転のお知らせ

当会事務局が平成17年3月15日よりブックハウスHDから広島大学大学院保健学研究科に移転しました。新しい事務局の連絡先が以下のように変更されます。

新住所：〒734-8551 広島県広島市南区霞1-2-3 広島大学大学院保健学研究科 浦辺研究室内 スポーツ選手のためのリハビリテーション研究会事務局

TEL 082-257-5405

FAX 082-257-5405

E-mail : sporeha@hiroshima-u.ac.jp

当会に関する質問・連絡等は新事務局にお願い致します。

スポーツ選手のためのリハビリテーション研究会
平成17年度予算案

平成17年2月24日

勘定項目	平成16年度予算	平成17年度予算	差異()	備考
収入	円	円	円	
年会費 正会員	3,200,000	3,200,000	0	10,000円×320名
年会費 学生会員	50,000	50,000	0	5,000円×10名
年会費 賛助会員	1,250,000	1,200,000	50,000	50,000円×24口
入会金 新規会員	180,000	180,000	0	3,000円×60名
事業収入	1,800,000	0	1,800,000	*1
雑収入	1,000	1,000	0	
当期収入合計 A	6,481,000	4,631,000	1,850,000	
前年度繰越金	1,000,000	1,000,000	0	
収入合計 B	7,481,000	5,631,000	1,850,000	

支出	円	円	円	
通信連絡費	250,000	300,000	50,000	ニュース発送(4回) 研修会誌発送他
事務消耗費	150,000	200,000	50,000	コピーメンテナンス料含む
会議費	650,000	800,000	150,000	理事会4回他
役員行動費	100,000	50,000	50,000	役員事業視察
人件費	600,000	600,000	0	
備品費	0	0	0	
備品管理費	50,000	50,000	0	
事業費	170,000	0	170,000	*1
会報作成費	360,000	360,000	0	ニュース発行年4回
教材資料作成費	210,000	200,000	10,000	研修会誌印刷代
雑費	20,000	21,000	1,000	
地方開催対策費	50,000	0	50,000	*1
事務委託費	3,600,000	1,800,000	1,800,000	
JAR制作費	21,000	0	21,000	
HP設営運営費	250,000	250,000	0	
住所録作成積立費	0	0	0	
会誌作成積立費	0	0	0	
SR基金積立費	0	0	0	
支出合計 C	6,481,000	4,631,000	1,850,000	

当期収支差額 A-C	0	0	0	
次期繰越金 B-C	1,000,000	1,000,000	1,000,000	

*1：事業収入・事業費・地方開催対策費は、平成17年度より一般会計と事業会計を独立させるため予算計上は行わない